

博物館入口の、根がないのに青々としている竹を見て、びっくりした。あれは、小さな穴をあけて、中に水がいられてあるそうである。夏になって園内全体が繁ってくれば、また違った景色になるだろうと思いながら辞した。  
(宇那木)

平成2年度 夏期研修会

笠形山観察会報告(8月17,18日)

第1日目

午後1時30分、グリーンエコー笠形に集合。部屋割の後、不用な荷物を置いて宿舎前に集まり簡単な開会式をする。その後自家用車に分乗して越知川へ。古田先生の指導で水中昆虫の採集をし、また、横山(正)先生が投網で捕らえた魚で勉強する。ヒラタカゲロウなどのカゲロウ類、チャパネヒゲナガカワトビケラなどのトビケラ類、カワゲラ類などの幼虫や扁形動物のプラナリアも採集できた。魚ではオイカワ・アユ・カワムツ・ウグイ・アブラハヤ・ヨシノボリ・アマゴ(湖産?)が網にかかった。採集の途中で猛烈な夕立となり宿舎に逃げ返る。但し、横山(正)・横山(了爾)先生はずぶぬれになって頑張られる。夕食時には横山先生の網に掛かった獲れたての魚を炭火で焼いて舌鼓を打つ。

夕食後は先ず横山(正)先生からスライドを使ってニホンバラタナゴの生態やタナゴ類の分類についてのお話を聞く。その後、姫路市立水族館の栃本氏からオオサンショウウオのお話を聞く。調査の7つの道具、個体の識別法、生態等永年の御研究の成果をスライドとビデオを使って御説明下さったが、真夜中の調査のご苦勞が忍ばれた。まだまだお話を聞きたいこともあったが10時を過ぎていたので打ちきりとする。

その後、ささやかな懇親会を開き、自己紹介では各自の現在やっていること、これからしようとしていることなどを語り合った。さらに、橋本先生の採集標本で勉強し、床についたのは午前1時前ではなかったか。(杉田)

第2日目

グリーンエコー笠形の宿舎を8時半頃出発した。一行は15名のうち女性は2名である。登山口に車を置き、坂道を登り始めた。だんだん坂道が急になる。あたりを見ると、コバンノキ、黄色の花をつけたヤマニガナ、ツルアジサイ、マツカゼソウ、葉の裏に毛のあるウスゲクロモジ、ツルニガクサなどがある。胆石病に効くクマヤナギはないかと探していると一株だけ見つかった。少し行った所で穂が直立したオオアブラススキに出会った。初めての出会いなので採集した。このあたりでウラジロノキも数株見つけた。そうこうしているうちに扁妙の滝が一望できる小台地に出た。

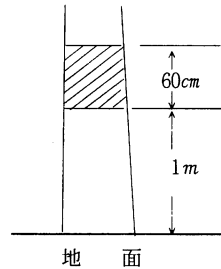
細長い白布を垂らしたように白く見える佳麗な滝が音

もなく流れ落ちている。滝壺に轟音をたてて流れ落ちる滝に比べて、静かで美しい女性的な姿に、しばしの間見とれていた。

そこには、ダンコウバイ、ソヨゴ、アカマツ、コバノトネリコ、ツガ、コバノミツバツツジ、ヒノキ、ナンキンナカマド、ヤマボウシなどが見られた。

また少し行くと、じめじめした登山道にミズゴケがはえていた。ホソバミズゴケかなと話しながら進んでいった。そこには、シラカシ、ムベ、ミヤマママコナ、シキミ、シラキ、トウゲシバ、アブラチャン、ウリハダカエデ、コアカソなどが見られた。そこにミヤマウズラを1本発見した。昭和30年~平成2年までの35年間に4本見ただけであつたので、ひときわうれしかった。

9合目に着いた。ミズナラ、ツガ、モミの大木があり、キバナヤマボクチも見ることができた。少し進んだ所に異様な情景を見た。リョウブの木の地上1m~1.6m位の所が何者かに樹皮をはがされている。1本だけではない。そのあたりのリョウブはすべてである。クマにしては爪あとなし。シカだろうかなどと想像しながら頂上めざして進んだ。



頂上まで15分の所で休憩し、若者等は頂上を征服して下山した。下界は猛暑であった。研修会に参加してよかったという充実感を味わいながら帰路についた。(向山)

参加者

当津 隆(姫路学院女子短大) 富川 哲夫(夙川学院)  
平畑 政幸(姫路学院女子短大)  
栃本 武良(姫路市立水族館)

(以上17日のみ)

山本 佳孝 吉田 孝(淳心高)  
(以上18日のみ)

東 英三(関西学院高) 伊賀崎香木(賢明女子学院)  
宇那木 隆(賢明女子学院) 甘中 照雄(福崎高)  
杉田 隆三(賢明女子学院短大) 竹内千登勢(福崎高)  
田村 統(山崎高) 中田 浩嗣(淡路盲)  
橋本 光政(自然系博物館) 古田 昌(香寺高)  
向山 俊作 矢内 正弘(姫路・四郷小)  
横山 正(福崎高) 横山 了爾(龍野高)

(以上両日)